

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	[住み慣れた街で、老いても障害があっても、誰もが安心して暮らせる地域社会づくり]を目指す。」という理念をつくっています。		
<input type="checkbox"/>	理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日設けているスタッフ間の申し送り時に声に出し読み確認しており理解し共有する事で実践するように取り組んでいる。		理念をスタッフ共有の場所に掲げ理解できるようにしている。
<input type="checkbox"/>	家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	盆踊り大会や、フリーマーケットを開催し、グループホームを広く地域の人に理解してもらえるように、入居者様の参加、案内チラシを配布当日は紹介コーナーを設けパンフレットの配布など行なっている。		運営会議(年3回4月、8月、12月)の実施、市福祉課、社会福祉協議会、民生委員、利用者の家族様の参加で実施
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	気軽に挨拶できるように又話せるように気を配っている。自治会の清掃には、ホーム長が参加近所の方も農作物を持って来てくださったりしている。		
<input type="checkbox"/>	地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域主催の音楽会や、行事には、参加させて頂き交流を図っている。又、近隣のボランティア又、小学生による楽器演奏会の実施(琴、笛、等)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症対策として、認知症対応の通所事業(隣接7月開設)の連携により介護予防を含め取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の評価結果も理解し、改善すべき点は早急に行なった。スタッフ一同質の向上を目指して日々のケアに繋げるようしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4ヶ月に1度会議を開催している。年間の行事予定や今後の取組みについて話し合い多くの方の意見を聞かせて頂き活かせるようにしている。		ホーム内研修についても報告し意見を聞いている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に一度の支援会議に出席し意見交換の機会を得ている。		具体的に日程調整を行いサービス向上に取り組みたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居者の中に成年後見制度を活用されている方がおり弁護士との情報交換等をおこなっている。地域権利擁護事業については居宅介護支援事業所の担当者を通じ学ぶ機会を持っている。		職員の内部研修等で学びそれらを、活用できるようにしていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	包括会議に参加し、学んだ内容等を通し全職員が理解できるように研修をしている。(言葉、態度、等による虐待の理解)		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>文書及び口頭にて十分説明を行い対応している。また、不安な事柄についても安心して頂けるようにお話をさせていただいている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>利用者の意見を最重要と考え意見を尊重している。管理者へ言える環境作りをしている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>変化する状況にあわせて随時報告をきちんとしている。また、毎月の暮らしや健康状態特変事項等を手紙と写真にて報告し家族に安心して頂けるようにしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時に十分話を聞かせて頂いている。また、毎月の手紙でも意見などを確認できるような文章を作成している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月の会議また、毎日の申し送り時等幅広く意見を提案できる機会を設けている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>月1度のミーティングや看護師等のカンファレンス毎日の申し送りの中で話し合い対応できる体制を取っている。また、管理者は日々の勤務に入らず緊急時のフォローに回っている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>常に利用者の変化に気を配り異同時は1人ずつ行う等配慮し、馴染みの関係が築けたか確認した上で行っている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内の研修への参加を積極的に勧め個々に応じた内部研修を実施し又研修期間中は自己評価できるように文章にて説明チェック欄を設けている。又、外部の研修も内容を確認の積極的に参加している。		病院の担当看護師とも連携し介護者と共に受ける事のできる医療関係の研修にも参加している。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市福祉課、社会福祉協議会を通じ他施設の見学、意見交換をして、季節に応じた取り組み等意見交換する機会を設けている。		勉強会が持てるように調整していきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者主催の食事会やカラオケ等を定期的開催している。又、いつでも話がきけるように日々口頭で呼びかけている。管理者は年1回(4月)に個人の成績の評価を行っている。(実績、能力、勤務状態等)		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	専門的な研修をしたり、看護師より医療知識の助言を貰えるような体制を取って学ぶ機会を設けている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談面接時アセスメントシートを使用しよりよく理解できるよう努力している。又、入所前に数回の施設の訪問を実施し、本人が落ち着ける環境を作りゆっくりと話を聞かせて頂けるように本人が落ち着いた状況である事を確認した上でやっている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	グループ内の病院、居宅支援事業所との連携を取り、幅広く意見を聞ける体制を取っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人グループとして、医療と介護の連携をどのように取っているか、利用者にとってどの環境が一番よいか、家族と相談している。		他の事業サービス又インフォーマルサービス等の情報を集めている。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	訪問して頂ける時間を設け徐々に馴染んで頂けるように工夫している。又、体験入所も行い家族とも心身の変化について相談しながらサービスの利用時期を検討して頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で自然と出る言葉に関し一緒に共感できるような働きかけをしている。又、生活暦職業暦を把握した上で話される内容にしっかりと耳を傾け納得して頂けるように返答し表情にも共感本人にも分かって頂けるようにしている。又、役割を持った生活ができるようにサポートしている。		職員の配置を考慮し落ち着いてなごめる環境づくりをしている。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時等変化する本人の状況も理解し、話し、共に本人を理解する支援をしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員全員が本人家族の理解に努め、誕生日会又は家族に参加して頂けるイベントを実施し、一緒に過ごせる時間を設けるような支援をしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の人には民生委員を通じ、知人の来所をお願いしている。手紙を書いて頂けるように支援。投函を職員が行っている。電話は通常に掛けて頂いている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を考慮し、リビングのテーブルの席の配置を行うなどしている。又会う趣味も把握し自然に関われるように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	その後の状況に応じサポートできる体制であることを説明している。		終了時の本人の状況に応じた情報を提供できる体制を整えている。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で、本人の希望を聞き入れるよう気を使っている。又、いろいろな提案も行っている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時にじっくり話を聞きまとめスタッフ全員が理解している。又、利用に至るまでの経過も理解している。		生活の中に今までの馴染みの暮らし方ができ、落ち着けるような配慮をしていく。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の申し送り昼夜の過ごし方などを考慮し、介護計画を立て総合的に支援できるようにしている。医師、看護師との連携を取り、いろいろな角度からその日にあった生活スタイルを考えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全体のミーティングを毎月開催し、意見を交換し合意を図っている。又、家族とは、本人の状況に応じ話し合える時間作っている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入退院、投薬の変更、又行動の変化などを見逃さないようにし職員、家族、医師と話し合える場を設け、現状にあった計画をつくっている。また必要に応じ毎日変化を話し合っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録だけではなく気づきノートを作ったり、特変があった場合はその後の経過も踏まえ、介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人家族の状況(独居)により民生委員ボランティアの協力を得ている。(家の整理等)		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			検討中。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	月1回の地域包括支援センター主催のケアマネージャ会議に出席、情報交換をしている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	納得を頂いているかかりつけ医がおり月1～2回の往診体制が整っている。又、状況の変化による相談もでき、医療面での支援体制も整っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門の主治医の往診も毎週あり、変化に応じ相談、治療、投薬を受けている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	特定の提携病院に担当の看護師がおり毎週状況の確認を行っている。又、スタッフも相談共に健康管理を行っている。		24時間緊急対応可能である。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ホーム長及び介護支援専門員が絶えず医療機関と話し合い協力を求め早期退院に向けて行っている。又、退院後の事に関しては看護サマリーにより情報の交換を行っている。		スタッフが毎日状態を確認。情報交換に努めている。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	心身の変化の状況に注意し、家族に説明。主治医にも随時相談し、話し合える時間を十分に持ち方針を共有している。		
	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	必ず医師に相談しホームでの生活を支えている。スタッフ共有でケアを行い主治医の指示に従って対応している。変化に備えて全員で検討。病院は24時間対応してくれている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族の意向を聞き担当ケアマネと連絡を取り合っている。又、退所後の状態も把握し、ダメージを防ぐようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個々の家族構成や過去の職業などを考慮し、ご本人が自然な振る舞いができるように声掛けをしている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>あらゆる場面で言葉掛けを行う。又、ジェスチャーで働きかけるなどして希望を理解できるように支援させて頂いている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>買い物(外出)や散髪の希望を聞き入れ短時間でも外出するように、している。又、入浴の時間や食事の内容(パン、粥、ご飯)又、デザート(果物、ヨーグルト)等ご自分で選択して頂いている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>毎朝、鏡の前で整容して頂き洋服についても相談し、その日の服装を決めて頂き、納得して頂けるようお手伝いをしている。理容美容に関しても希望通りにパーマやカラーリングをうけていただいている。</p>	<p>好みの服スタイル等自ら決めて頂けるよう支援を行っている。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者の食べたい物など相談しメニューに取り入れている。又、調理しやすい食材等利用者の状態に応じ一緒に準備している。又、下膳、食器洗い、拭き等担当を分けて手伝ってもらっている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>買い物時に利用者の希望を聞き支援している。又、行ける利用者は、一緒に出かけ好みの物を購入している。</p>	<p>たばこは、吸われる方がいても、こちらからは、お勧めしない。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日々改善を心がけ、排泄のパターンを理解し日中、夜間を問わず、トイレへの誘導を行っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	今までの生活習慣に合わせ利用者の好む時間、お湯の温度、入浴剤の使用等により楽しめるように支援している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	起床時間、睡眠時間等の把握を行い昼食後等の休息を勧めさせたり就寝時には、ホットミルクを飲んで頂いたり、あかりや室温の調節を行っている。		利用者の個々の生活リズムを理解する。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中でそれぞれの状態に応じて役割を持ち興味も持って頂ける事をしてもらっている。又、気晴らしに歌を唄ったり散歩に出かけるなど支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週何度が利用者と一緒に買い物に出かけている。又、ホーム主催のフリーマーケットでは、職員が付き添いでお金を持って頂き希望する物を購入して頂いている。		現在必要な時のみお金を頂いているが、日常はお金を持ってもらっていない。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に沿って戸外に出かけられるように支援している。又、季節に応じ花見に出かけたり、夏祭り等に参加している。又、家族にも協力して頂き外出の機会をもっと頂けるように支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族に相談、個別に外出してもらっている。		家族にも相談。機会を持てるように対応していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は要望があればかけていただいている。又、家族からの電話も取り次ぎ話して頂いている。手紙も代筆をしたり投函は職員がしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間はきめておらず自由にきてもらっている。居室、リビングでゆっくり話しをして頂けるように配慮し、お茶の接待を行っている。又、食事也希望により事前に連絡があれば一緒にして頂いています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロセミナーを受講した職員が得た知識を他の職員に伝え実践している。全てのケアに対し身体拘束にならないか検討している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	交通量の多い道路に面しており危険な為に門には施錠しているが、それ以外はしていない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人の様子を把握できる場所に職員の配置をしている。又、職員間で声を掛け合って安全にすごせるように努めている。トイレ、入浴介助については特に気を使っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	状態に応じた対応をしている。異食なども常に考慮し対応している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	1人ひとりのADL、又、認知度を理解し状態に応じた事故防止に取り組んでいる。又、リスクケアマネジメント、誤薬や窒息についての研修もおこなっている。又、防火訓練も消防署の指導を受けて行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成し誰もが確認できるようになっている。又、救命救急の講習もうけている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災の訓練は消防署の指導をうけ訓練をしている。地域の警察、班長、関係先等への連絡網ができています。		次回利用者と共に訓練の予定をしている。今後は地域の人にも協力を働きかけたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	状態に応じ説明を行っている。自然な形での介助を心がけ職員は申し送り時確認し合い個人にあった対応をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	変化を見逃さない介護を実施。観察技術を高めるように職員のレベル向上も視野に入れ記録を残している。		手足の血行の確認。浮腫などの確認も時間を決めて行っている。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルにて管理し誰が見ても理解できるように努めている。又、副作用についても薬剤師より説明を受けている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜を多く摂取して頂いたり乳製品を採って頂くなどし腹部マッサージの仕方を覚えて頂いたりしている。運動不足の方には、散歩等して頂いている。又、便秘においては投薬治療を行い快適に通じがあるように取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	できる範囲は、して頂いている。食後の口腔内の確認は適宜行って、清潔を保つ支援を行っている。		義歯は夜間洗浄剤につけている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分摂取量又、排尿量のチェックを行い把握している。又、個人によって低カロリー・の乳製品等を使用している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	うがい手洗いの励行を徹底している。医師との連携体制も整っている。ホームの全員がインフルエンザの予防接種を施行している。		感染症の研修に参加している。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理担当の職員を配置。手洗いうがいを徹底しアルコール消毒液を使用している。又、お絞りは毎回漂白をしている。又、生ものは使用せず、必ず火に通した調理を行い食材も新鮮な物を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	駐車場に樺と花を植え入り口横には季節の花を植えている。施設の廻りに花壇や畑を設けている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	誰もが調理や片付けに参加できるように開放的な台所を設けている。又、和室にコタツを設置し和んでもらっている。又、季節の花を飾っている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時や自由時間に使って頂くテーブルを3卓用意し個々に設置。共通の趣味等を考慮した配置をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使われていた物を持ち込んで頂く等配慮している。(食器、ふとん、まくら等)		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気を促す声掛けをさせて頂く。エアコン使用時は必ず状態を確認又、夜間もタイマー等で調節し随時職員が心掛けている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	随所に手摺を設け平屋建てのバリアフリー設計となっている。脱衣所も動線を考慮し腰掛けを設け脱衣して頂けるようにしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや洗面所に大きく字を書いている。電気のスイッチにラベルを貼り混乱しないように心掛けている。		居室の扉には、本人の馴染みの物を目印として飾っている。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周りには花壇を設けて季節の花を植えている。又、裏の畑の横には、テラスがありおやつを食べたり季節にあった催しをしている。		夏は花火、秋はお月見等。又、畑を設け共に楽しんでいる。

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・職員は出勤時必ず入居者様全員に笑顔で挨拶する事を実践している。又手を握り状態の変化等に早く気付けるようにしている。又天候の良い日は、散歩や日光浴をして頂いたり、近く買い物に行って頂く等している。
- ・又、日々の実践ではないが、誕生日会は家族様との食事会も兼ね、1人1人の誕生日に合わせ好みの食べ物を聞かせて頂いたりして、楽しんでもらえるようにしている。